

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
AWSクラウド演習Ⅱ		情報システム学科/3年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	川人 宏行
授業の概要				
基本的なAWS (Amazon Web Service)のサービスを利用するうえで必要なセキュリティ対策の基本知識を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・AWSクラウドを使用する際のセキュリティ上の利点と責務を特定する ・AWS のアイデンティティとアクセスの管理機能を使用する ・AWS リソースへのネットワークアクセスを保護する方法について説明する ・保管中と転送中のデータの暗号化に使用できる方法を説明する ・モニタリングとインシデント対応に使用できる AWS のサービスを判断する 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		エンジニアとして5年間勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	モジュールの概要	コースの受講資格と目標 コースの概要 AWS Certified Security ? Specialty 認定		
2~6	AWS におけるセキュリティの概要	AWS クラウドのセキュリティ セキュリティの設計原則 責任共有モデル		
7~11	クラウドリソースへのアクセスのセキュリティ保護	IAM の基礎 IAM での認証管理 IAM でのアクセス権管理 IAM でのアクセス権管理の例 その他の認証サービスおよびアクセス管理サービス AWS Organizations の使用 デモ: Amazon S3 クロスアカウントのリソースベースのポリシー ラボ: リソースベースのポリシーを使用して S3 バケットをセキュリティ保護する		
12~16	インフラストラクチャの保護	3層ウェブアプリケーションの構造 VPC の使用 パブリックサブネットおよびプライベートサブネットとインターネットプロトコルの設定 AWS セキュリティグループの使用 AWS ネットワーク ACL の使用 AWS ロードバランサーの使用 まとめ コンピューティングリソースの保護 ラボ: セキュリティグループを使用して VPC リソースを保護する		

回	テーマ	内 容		
17～ 21	アプリケーションでのデータの保護	保管中のデータの保護 Amazon S3 の保護機能 暗号化による保護 送信中のデータの保護 Amazon S3 でデータを保護するためのベストプラクティス その他のデータ保護サービス ラボ：AWS KMS を使用して保管中のデータの暗号化を実装する		
22～ 26	ログ記録とモニタリング	ログ記録とモニタリングの重要性 キャプチャと収集 ログ記録機能が組み込まれている AWS のサービス モニタリングとレポート ログ記録とモニタリングのベストプラクティス ログ記録とモニタリングのためのその他の AWS のサービス ラボ：AWS CloudTrail と Amazon CloudWatch を使ってモニタリングとアラートを設定する		
27～ 30	インシデントへの対応と管理	インシデントの特定 発見と認識のフェーズをサポートする AWS のサービス 解決と復旧のフェーズをサポートする AWS のサービス インシデント処理におけるベストプラクティス ラボ：AWS Config と AWS Lambda を使用してインシデントを修復する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
AWSクラウドセキュリティの基本と仕組み		課題・レポート 出席率	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅱ		情報システム学科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	川人 宏行
授業の概要				
就職活動を控え、これから、社会人になるにあたって、必要なスキルを身につける 3KAN教育の後半として、就職活動を通して社会人に必要なスキルを身につける				
授業終了時の到達目標				
1. 3KAN教育(1.自己効力感 2.成長実感 3.学び続ける習慣)により企業が求める人材を育成する 2.基礎学力、専門知識を将来社会において発揮することができるための汎用的能力の育成 3.目標を設定し管理することによって、自己成長を実感させ、将来設計ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テーマ	内容		
1	企業訪問/就職試験について/ 企業が欲しい人材/自己分析 就職活動の確認	企業が求める人材の理解と自分を理解する 各学科で就職活動について確認事項を確認する。		
2	グループディスカッション・ワーク	ディスカッション(インバケット思考) ～聴く力をつけ、いい質問をする～ 1. グループワーク 2. Win-Winの関係		
3	就職や社会におけるSNSの活用 ・SNSを就職活動に役立てる方法と 注意点について理解する ・SNSが扱う個人情報や社会でどう 関わっているのかを、法律的な観点 から理解する ・「著作権」や「肖像権」への意識 を高める。 ・SNSやWeb上で写真や動画を扱う際 の注意点を理解する。	(前半) 1. SNSとはどのようなものか 2. SNSを利用した就職活動の方法例 3. SNSの利用を誤った場合の失敗例 (後半) ・著作権とは? ・肖像権とは? ・SNSへ画像や動画を投稿する際の注意点		
4	就職活動の確認	各学科で、就職活動について確認する。		
5	新聞を通して、情報の入手の仕方 や、新聞の読み方を学ぶ 外部講師(徳島新聞社)	①仕事に必要な基礎能力とは ②基礎能力向上に新聞がなぜ役立つか ③新聞と他メディアの違い ④慣れない新聞の読み方 ⑤1日10分で基礎能力のトレーニングになる新聞の使い方		
6	就職活動の確認	各学科で、就職活動について確認する。		

回	テ ー マ	内 容		
7	<p>社会に出た際に必要となる知識を学び理解する（働くことの基礎知識～労働・給与・税金～）</p> <p>外部講師（小西先生）</p>	<p>給与計算の基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給与に関する法律 ・ 給与支払いの5原則 ・ 給与明細の見方 ・ 残業時間の計算 ・ 法定労働時間と変形労働時間制 ・ 残業時間を計算する ・ 時間外労働の割増率 ・ 税金について 		
8	就職するにあたって	<p>社会人になるということ</p> <p>学生と社会人の違い</p>		
9～ 15	就職活動に於いての個別相談	<p>学生の進捗状況の把握と、個人指導を行う</p>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
授業担当者によるレジュメ		出席率	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
IoT演習		情報システム学科/3年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	吉村 健太
授業の概要				
IoT関連の機器の設定、アプリ開発の基本を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
IoT関連の機器の設定、アプリ開発の基本ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		【実務経験】 吉村 健太: システム管理、システム開発経験16年 これまでの勤務経験を活かし学生のロールモデルとなること。		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テーマ	内容		
1~2	ラズベリーパイの導入	ラズベリーパイのハードウェアや初期設定方法の理解		
3~4	ラズベリーパイの導入	ラズベリーパイのハードウェアや初期設定方法の理解		
5~6	ラズベリーパイの導入	ラズベリーパイのハードウェアや初期設定方法の理解		
7~8	ラズパイの使い方超入門	LEDを使ってのラズベリーパイの簡単な使い方と操作方法		
9~10	ラズパイの使い方超入門	LEDを使ってのラズベリーパイの簡単な使い方と操作方法		
11~12	ラズパイの使い方超入門	LEDを使ってのラズベリーパイの簡単な使い方と操作方法		
13~14	複雑な配線	拡張機能を使っての複雑な配線		
15~16	複雑な配線	拡張機能を使っての複雑な配線		
17~18	複雑な配線	拡張機能を使っての複雑な配線		
19~20	動力	モーターなど、モノを動かしてみる		
21~22	動力	モーターなど、モノを動かしてみる		
23~24	動力	モーターなど、モノを動かしてみる		
25~26	情報を受け取る	データのインプットにより、動作する		
27~28	情報を受け取る	データのインプットにより、動作する		

回	テ ー マ	内 容		
29～ 30	情報を受け取る	データのインプットにより、動作する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Raspberry Pi Raspberry Pi 工作キット		出席率 実習・実技評価	40.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
サーバ構築演習		情報システム学科/3年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	松崎 友亮
授業の概要				
Linuxサーバの構築				
授業終了時の到達目標				
Linuxの基本コマンドを習得する 目的に応じたサーバ構築が出来る知識を習得する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		松崎 友亮: システム開発経験8年、Webアプリ開発経験5年 これまでの勤務経験を活かし学生のロールモデルとなること。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テーマ	内容		
1~7	GentOSの導入と基本操作	Chapter1 基礎知識 Chapter2 インストールとバージョンアップ Chapter3 初期設定 Chapter4 システムの起動と停止 Chapter5 基本操作		
8~17	運用管理と仮想化	Chapter6 ディスクとファイルシステムの管理 Chapter7 高度なストレージとデバイスの管理 Chapter8 運用管理 Chapter9 システムサービスの管理 Chapter10 ネットワーク Chapter11 仮想化技術		
18~24	サーバの導入と設定	Chapter12 ネットワークモデル Chapter13 外部/内部向けサーバ構築 Chapter14 内部向けサーバ構築		
25~30	セキュリティ技術と対策ツール	Chapter15 セキュリティ対策		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準テキスト CentOS 8 構築・運用・管理 パーフェクトガイド [CentOS Stream対応]		課題・レポート 出席率	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
RPA演習		情報システム学科/3年	2024/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	川人 宏行
授業の概要				
RPAツールを利用しPC上でのルーチンワークを自動化する技術を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
RPAツールを利用し上でのルーチンワークを自動化することができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		エンジニアとして5年間勤務		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	RPA概論 BizRobo!概要説明	「RPAとは」 「BizRobo!の操作画面/用語」		
2	BizRobo!を使った開発	「Webサイトに値を入力して情報を取得する」		
3	BizRobo!を使った開発	「Excelに値を入力して情報を取得する」		
4	BizRobo!を使った開発	「Excel-Web間の連携(繰り返し)」 EXCELの情報をwebに登録する		
5	BizRobo!を使った開発	「条件分岐Web情報取得」 条件によって処理を分けてEXCELに入力する		
6~ 7	BizRobo!を使った開発	「PDF」 PDFから文字列を取得する		
8	BizRobo!を使った開発	「EXCEL集計」 複数のEXCELから情報を取得する		
9	BizRobo!を使った開発	「WebからCSV」 Webの情報を取得してCSVに出力する		
10	BizRobo!を使った開発	「CSVからExcel」 CSVから情報を取得しEXCELで出力する		
11	BizRobo!を使った開発	「日付処理」 日付情報を取得してEXCELに出力する		
12	BizRobo!を使った開発	「エクスペッション」 式を使用して条件判定を行い結果をEXCELで出力する		
13	BizRobo!を使った開発	「ファイル解凍」 圧縮ファイルをロボットで解凍する		
14	BizRobo!を使った開発	「ファイル圧縮」 ファイルをロボットで圧縮する		

回	テ ー マ	内 容		
15	BizRobo!を使った開発	「DAとは」 desktop automationについて理解する 「起案・業務選定・設計」 RPA開発までのステップを確認する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
RPAデジタル業務改革_前編/後編		課題・レポート 出席率	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報処理/ベンダー対策		情報システム学科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	岸 肇
授業の概要				
・基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の午後試験分野別対策を行う				
授業終了時の到達目標				
基本情報処理の合格 応用情報処理試験の合格				
実務経験有無		実務経験内容		
有		システムエンジニア職として8年間勤務 社会人経験を活かし、学生のロールモデルとなるように授業展開する		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1～14	基本情報午後対策	問題答練		
15～29	過去模試・本試験	本試験形式の問題にて答練を行う		
30	期末試験	期末試験を行い理解度の確認を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験 出席率	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
クラウドセキュリティ議論		情報システム学科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	岸 肇
授業の概要				
セキュリティに関する基礎				
授業終了時の到達目標				
クラウドにおけるセキュリティの基礎的な知識を身につけていること				
実務経験有無		実務経験内容		
有		エンジニアとして5年間勤務 社会人経験を活かし、学生のロールモデルとなるように授業展開する		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1~2	情報セキュリティ	情報セキュリティ		
3~4	クラウドの利用動向とクラウドセキュリティ	クラウドの利用動向とクラウドセキュリティ		
5~6	クラウド時代の法的対応	クラウド時代の法的対応		
7~8	クラウド特有の脅威と管理策	クラウド特有の脅威と管理策		
9~10	クラウド環境を活かすシステム設計と運用	クラウド環境を活かすシステム設計と運用		
11~12	クラウド時代の開発・運用技術	クラウド時代の開発・運用技術		
13~14	問題演習	問題演習		
15	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
オンラインテキスト		出席率 期末試験	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ビジネスマナー		情報システム学科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	板東 里枝
授業の概要				
1. ビジネス社会・企業などの組織の一員として活躍するために必要な社会常識や心構えを学ぶ 2. 職場でよい人間関係を築くために必要なコミュニケーションのスキルを学ぶ 3. 業務処理に必要な接遇マナーやビジネスマナーを学ぶ				
授業終了時の到達目標				
1. 社内外の人との良好な人間関係を築くために、適切なコミュニケーションが図れる 2. 指示された仕事を遂行するために、職場のマナー・来客対応・電話対応の基本、結婚・吊事のマナーなどの知識・技能を身につけている				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
【準備学習】前回学んだところをプリント等を用いて復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	1. マナーとは	1. 接遇マナーを学ぶ理由 2. 常識とマナーの違い		
2	2. ノンバーバルコミュニケーション	1. よいコミュニケーションをとるために 2. 環境を通して、人に送られる情報 3. 人から受け取る情報 身だしなみ、視線、表情、立ち居振る舞い		
3~5	3. バーバルコミュニケーション	1. 傾聴 2. 敬語の基本 3. 間違えやすい敬語		
6	相手が受け入れてくれる話し方	1. クッション言葉を遣う 2. 接遇用語を使う 3. 語尾を丁寧にする 4. プラスアルファの一言をつける		
7	ワンランク上の話し方	1. コンビニ言葉に注意する 2. ポジティブに話す 3. あとよし言葉を遣う 4. マイナスな言い方をプラスに変える 5. 質問の仕方を工夫する		
8	4. 職場のマナー	1. 職場の組織 2. 公私のけじめ 3. 求められる人材 4. 仕事と成長		
9	5. 来客対応のマナー	1. 受付の流れ 2. 受付の要領 3. 名刺の知識 4. ご案内の要領		

回	テ ー マ	内 容		
10~ 11	6. 電話対応のマナー	1. 電話対応の重要性 2. 電話対応の目的とポイント 3. 取次ぎの電話の要領 4. ケーススタディ		
12	7. 伝言メモの知識	1. 伝言メモ作成のポイント 2. 伝言メモ記入事項 3. ロールプレイング		
13~ 14	8. 検定対策	1. 社会人常識マナー検定過去問題を解く 2. 解答・解説		
15	9. 復習と期末試験	1. 学習したことの復習 2. 期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
社会人常識マナー検定試験3級 最新過去問題 プリントほか		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
レクリエーション実習		情報システム学科/3年	2024/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	藤原 希
授業の概要				
徳島市立体育館を使用し、適度な運動を行う。 体育館が使用できない場合は、頭を活性化できる室内ゲームを行う。				
授業終了時の到達目標				
普段動かさない体の各部を使用することで、健康的な体を育成する。 ITの使用や勉強などによるストレスを発散し、心身の健康を保つ。 室内ゲームにより、脳内の活性化と、グループワークを身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 準備運動をして体を慣らしておくこと				
回	テーマ	内容		
1~15	体育館でのレクリエーション	チームスポーツの体験 ・バレーボール ・バスケットボール ・バドミントン ・フットサル ・ドッジボール ・ドロケイ ・陣取りゲーム など		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
徳島市立 体育館		出席率 課題・レポート	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ビジネスプレゼン演習		情報システム学科/3年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	選択	永田 広志
授業の概要				
ビジネスについて論理的に考えることを習得する。 プレゼンテーションを通してコミュニケーション能力を習得する。 世界のビジネスとデザインを知る。				
授業終了時の到達目標				
基礎的な理論に基づく課題に対するデザイン能力とプレゼンテーション能力の獲得 「知らない」ことに気づく、知る				
実務経験有無		実務経験内容		
有		永田 広志: グラフィックデザイナーとして6年の実務経験 これまでの経験を活かして、グラフィックデザインの基礎を指導		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	授業概要	オリエンテーションおよび課題説明: 課題1「他己紹介」プレゼンテーションおよび講評		
2~3	付加価値	課題説明: 課題2「付加価値の考察」 チームワーク		
4~5	ビジネスについて	課題2「付加価値の考察」プレゼンテーション及び講評 課題説明: 課題3「ビジネスとは」		
6~7	ビジネスについて	課題3「ビジネスとは」プレゼンテーション及び講評 課題説明: 課題4「デザインとは」		
8~9	デザインについて	課題4「デザインとは」プレゼンテーション及び講評 課題説明: 課題5「ダイバーシティとは」		
10~11	ダイバーシティについて	課題5「ダイバーシティとは」プレゼンテーション及び講評 課題説明: 課題6「SDGsとは」		
12~13	SDGsについて	課題6「SDGsとは」プレゼンテーション及び講評 課題説明: 課題7「OpenAIとは」		
14~15	OpenAIについて	課題7「OpenAIとは」プレゼンテーション及び講評 授業まとめ、全課題講評、気付き築く		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
参考図書及び資料プリント		出席率 課題・レポート	40.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ビジネス文書		情報システム学科/3年	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	選択	板東 里枝

授業の概要

- ①表記技能/ビジネス文書の書き表し方
- ②表現技能/ビジネス文書を書く要領
- ③実務技能/ビジネス文書を作成する、取り扱う
- ④検定過去問題

授業終了時の到達目標

- ①ビジネス文書技能検定3級または2級の取得
- ②実社会でビジネス文書を正確、迅速に作成できるよう基本知識を身につける

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

【準備学習】前回学んだところをプリント等を用いて復習しておくこと

回	テーマ	内容		
1~3	社会人常識マナー検定対策	第30回～第32回問題実施 解答・解説		
4	表記技能	1. ビジネス文書とは 2. ビジネス文書検定とは 3. ビジネス文書作成のポイント		
5	表現技能	1. 正確な文章を書く 2. 件名をつける 3. 無駄な部分を削る 4. 箇条書きの書き方		
6~7	実務技能	1. 用紙・封筒のサイズと用途 2. 社内文書の基礎知識 3. 社外文書の基礎知識		
8~13	ビジネス文書検定対策	過去問題を解き、解答解説		
14	ビジネスメールの知識	1. ビジネスメールの重要性 2. ビジネスメールの構成 3. ビジネスメールの注意点 4. ビジネスメールの作成演習		
15	期末試験	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
ビジネス文書技能検定問題集		期末試験 課題・レポート 検定対策・結果	30.0% 30.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
卒業研究		情報システム学科/3年	2024/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	180回	24単位(360時間)	選択	川人, 吉村, 松崎友, 田中健
授業の概要				
【1】各グループごとにシステムを開発する 【2】企画書を作成し、それに基づく研究・制作の成果物を期限内に提出する。				
授業終了時の到達目標				
【1】システムを開発・テスト・運用までできるようになる 開発目的や趣旨をユーザに説明できるようになる 【2】3年間の学習および産学連携の成果をもとに卒業後の志望分野を視野に入れながら社会課題解決を目指す。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		川人 宏行: エンジニアとして5年間勤務 これまでの経験を活かし、学生のロールモデルとなるよう授業展開する 吉村 健太: システム管理、システム開発経験15年 これまでの勤務経験を活かし学生のロールモデルとなること。 松崎 友亮: システム開発経験8年、Webアプリ開発経験5年 これまでの勤務経験を活かし学生のロールモデルとなること 田中 健介: 会社にて3年間勤務経験 これまでの勤務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	開発手法の種類と特徴	開発手法の種類や方法、メリット・デメリットについて		
2~7	各自卒業研究テーマを考える	卒業研究として作成したいシステムを各自企画する		
8~9	卒業制作企画発表	各自の企画を発表し、プレゼンを行う		
10~11	卒業研究テーマ決定	各チームで役割分担(フロント・サーバサイド・データ入力・資料作成など)、スケジュール作成		
12~16	チーム作業1	外部設計		
17	進捗報告	作業進捗報告		
18~22	チーム作業2	外部設計		
23	進捗報告	作業進捗報告		
24~28	チーム作業3	外部設計		
29	進捗報告	作業進捗報告		
30~34	チーム作業4	内部設計		

回	テ ー マ	内 容
35	進捗報告	作業進捗報告
36~ 40	チーム作業5	内部設計
41	進捗報告	作業進捗報告
42~ 46	チーム作業6	内部設計
47	進捗報告	作業進捗報告
48~ 57	チーム作業7	環境設定・システム開発
58	進捗報告	作業進捗報告
59~ 68	チーム作業8	環境設定・システム開発
69	進捗報告	作業進捗報告
70~ 71	中間報告	卒業研究の企画、現在の進捗状況を報告する
72~ 81	チーム作業9	システム開発
82	進捗報告	作業進捗報告
83~ 92	チーム作業10	システム開発
93	進捗報告	作業進捗報告
94~ 98	チーム作業11	システム開発
99	進捗報告	作業進捗報告
100 ~ 109	チーム作業11	システム開発
110	進捗報告	作業進捗報告
111 ~ 120	チーム作業11	システム開発
121	進捗報告	作業進捗報告
122 ~ 131	チーム作業12	システム開発・システムテスト
132	進捗報告	作業進捗報告

回	テ ー マ	内 容		
133 ～ 144	チーム作業 1 3	最終報告準備、設計書作成		
145 ～ 154	チーム作業 1 4	システム最終調整・最終提出書類作成		
155 ～ 180	最終報告	卒業研究の最終報告を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 中間報告 最終報告	30.0% 35.0% 35.0%	